

情報活用能力を育む新聞活用の授業づくり

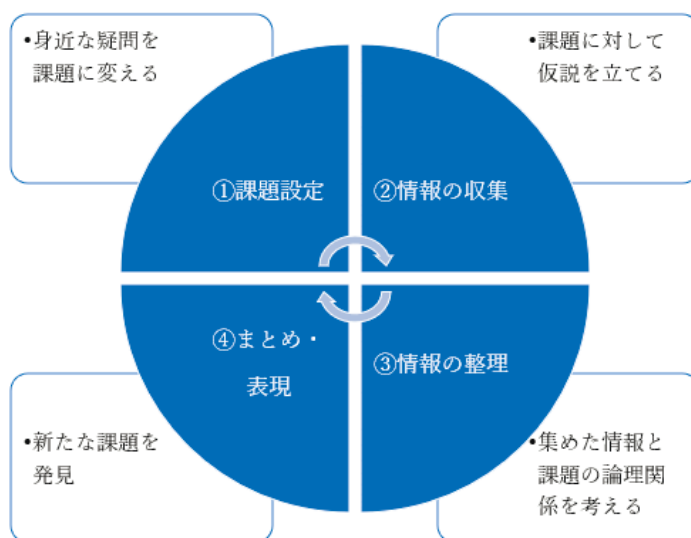
～生徒の主体性を喚起し、深い学びが生まれる授業を目指して～

柏崎市立南中学校

1 NIE 実践のねらい

本校では、『情報活用能力を育む新聞活用の授業づくり～生徒の主体性を喚起し、深い学びが生まれる授業を目指して～』という研究主題のもと、校内研修や実践を進めてきた。本校の生徒の定期テストや全国学力・学習状況調査などの結果を見ると、文章から必要な情報を抜き出し活用する情報活用能力に課題がある。

そこで、今回のNIE実践では、授業において新聞活用が有効とされる場面、①課題設定 ②情報の収集 ③情報の整理・分析 ④まとめ・表現を考え、生徒が自ら進んで新聞から情報を活用し、さらに深い学びへと発展させ、その考えを表現する生徒の育成を図るための取組を行った。また、NIE実践が始まる前に、新聞に関わるアンケートを実施した。その結果を見ると学校



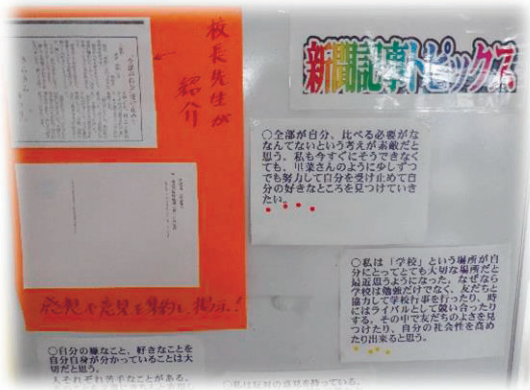
全体として、新聞の定期購読を行っている家庭は約56%であった。その中で、新聞記事やニュース等には関心があるかという質問に対して、とてもある・少しあるという肯定的な回答は、全体の約60%であった。このことから、新聞購読をしている家庭は全国平均程度ではあるが、関心を持っていても日常的に新聞を読む生徒が少ないことが読み取れた。その背景には、情報を得るために利用するメディアとして、インターネットやSNSなどを利用していることが伺えた。このことから、実践を通して、生徒が新聞のよさを実感し、触れやすい環境づくり、そして、アナログとデジタルをうまく併用することが重要になると考え、その点もねらいに加え、学校全体で取組を進めた。

2 実践の概要

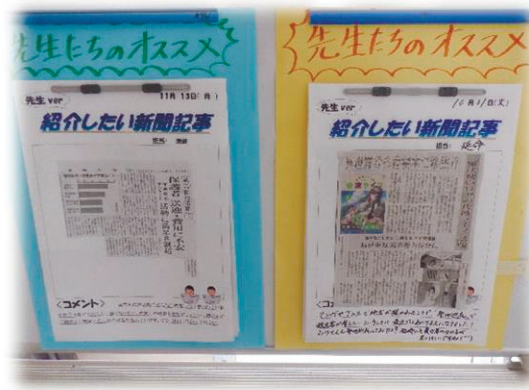
(1) 新聞に触れる環境づくりと活動

① 生徒玄関のNIEコーナー

生徒玄関前に設置した、校長からの新聞紹介コーナーでは、避難訓練の前に中越沖地震等の新聞記事を掲示したり、「キラキラきらり」の投稿に対する感想や意見を表現できるシートを用意したりした。また、職員が輪番で気になる記事を生徒に紹介するコーナーも併せて設置した。【写真1】本校の生徒やALTの職員が取り上げられている記事もあり、興味を持って読んでいた姿が見られた。【写真2】



【写真1：校長の紹介記事】



【写真2：職員の紹介記事】

② 教室前の新聞閲覧コーナーの設置

各教室の前に、新聞ラックを設置し、普段から新聞を閲覧できるように環境を整備した。また、複数の新聞社を置くことで同じ事象についての記事でも新聞社による違いなどを比較できるようにした。生徒たちが休み時間等を使い、新聞記事を読んだり、その新聞記事をもとに話をしたりする場面が多く見られた。さらに、学級によっては生徒玄関の掲示と同じように、担任が身近な記事をピックアップし、コミュニケーションのきっかけとして、新聞記事とその投げかけを行っているところもあった。

③ 日直の記事紹介とNIEタイムの実施

その日の日直が、気になる新聞記事とその記事に対する感想や意見を終学活で紹介する取組を進めた。また、毎週金曜日の朝の時間にNIEタイムを設け、班ごとに各分野に関わる記事をスクラップする取組も行った。日直の記事紹介のみだと普段新聞を読まない生徒が自ら進んで新聞を読むということは難しいため、全校生徒で一斉に取り組むNIEタイムを設置することで自然と新聞に触れ、班で行うなかで新聞記事に関わる会話も生まれている様子も見られた。【写真3～4】



【写真3：日直の紹介記事】



【写真4：生徒が作成したスクラップブック】

④ その他

新聞に親しむ活動の一環として、「キラキラきらり」への投稿、新聞記事感想文コンクールへの応募も行い、インプットだけでなく、アウトプットすることも働きかけた。新聞記事をきっかけに、自分の考えや意見を表現する貴重な経験となった。

(2) NIE に関わる研修

年度	日 付	内 容
R4	4 月 18 日	第 1 回ネットワーク会議（実践研究委嘱校説明会）校長出席
	5 月 25 日	NIE 情報交換会 校長・NIE 主任出席
	5 月 31 日	校内研修会 アドバイザー：岡村 範雄 様
	7 月 27 日	新規 NIE 担当者オンライン会議 NIE 主任参加
	8 月 23 日	校内全体研修会 講師：木村 隆 様（新潟日報社読者局参与）
	9 月 22 日	校内 NIE 授業研修（1 年生英語） 授業者：箕輪 しのぶ
	11 月 8 日	校内 NIE 授業研修（3 年生総合） 授業者：小沢 優貴
	11 月 18 日	第 2 年次研究委嘱校による研究発表会への参加 小千谷市立小千谷中学校 校長出席
	11 月 25 日	第 1 年次まとめの研究発表会 指導者：県アドバイザー：岡村 範雄 様 （上越市立三和中学校） NIE 推進協議会事務局長：津野 庄一郎 様 2 年生保健体育 授業者：渡邊 美優
	12 月 26 日	校内全体研修会
	1 月 18 日	1 年生 NIE 外部講師による授業 前田 有樹 様 （新潟日報社柏崎総局長）
R5	1 月 19 日	2 年生 NIE 外部講師による授業 前田 有樹 様 （新潟日報社柏崎総局長）
	4 月 18 日	実践ネットワーク会議 校長・主任出席
	5 月 31 日	第一回 NIE 情報交換会 校長出席
	6 月 5 日	NIE 校内研修会①
	6 月 21 日	1 年生 NIE 外部講師による授業 前田 有樹 様 （新潟日報社柏崎総局長）
	6 月 28 日	2 年生 NIE 外部講師による授業 前田 有樹 様 （新潟日報社柏崎総局長）
	7 月 10 日	NIE 校内研修会②
	8 月 3・4 日	NIE 全国松山大会 校長出席
	8 月 23 日	NIE 校内研修会③
	10 月 16 日	NIE 校内研修会④
	10 月 26 日	NIE 外部講師による講演会 高橋 一也 様 （綾子舞保存振興会）
	11 月 2 日	NIE アドバイザー来校 岡村 範雄 様
	11 月 13 日	NIE 校内研修会⑤
	11 月 24 日	NIE 研究発表会

3 実践例（NIE 研究発表会で公開したもの）

保健体育（2 年生）	安全・安心な体育祭を提案しよう
○ねらい 体育理論で扱うスポーツの意義や効果、スポーツを安全に行う方法を学習し、体育の知識を学校行事に生かすこと（教科等横断的な学習）で、深い学びにつなげる。 ○記事 新潟日報「学校のリスクの今」（2016 年 10 月 19 日）ほか	
生徒が体育祭に対して持っている課題をより明確にするために、運動が苦手な子に関する記事や体育祭の事故に関する記事を取り上げる。そして、令和 4 年度の体育祭を振り返り、南中学校体育祭の課題を見つける。次に、課題を解決するためのヒントとして、教科書を用いてスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方を学ぶ。最後に、学んだことを生かし、班ごとにスライドを用いて発表するという内容で行った。生徒が考えた内容は、令和 5 年度の体育祭に反映させた。	
【写真 5：新聞記事の掲示】 【写真 6：発表の様子】	
総合的な学習の時間（3 年生）	綾子舞の伝統継承を切り口に、どうすれば地域を活性化することができるか、私たちにできることや未来に向けて必要なことについて考える。
○ねらい 綾子舞の継承・地域の活性化に向けて自分たちにできることを考える ○記事 新潟日報「結婚支援事業」（2017 年 9 月 17 日）ほか	
全学年共通のテーマを「綾子舞の伝統を未来に継承するために私たちにできること」として、全校体制で NIE 活動を進めてきた。3 年生では、グループごとに 2 つの視点で進めた。一つは綾子舞の抱える課題から伝統の継承について自分たちにできることを考えるというもの。調べ学習の際には、綾子舞以外の伝統文化について、継承していくためにどのような活動をしているかを新聞記事からヒントを得たり、根拠としたりする。もう一つは、地元の出身者が将来、戻ってきたいと思える魅力ある柏崎のために、地元が抱える課題について考え、その活性化に何が必要なのか、自分たちにできることや未来に必要なことなどを考えるというものである。地域の課題を知るために、柏崎市から出ている後期計画を使用し、より具体的な根拠を持った提案になるようにした。生徒たちがこの 2 つの視点から共通点を考え、具体的にどのようなことができるのかを新聞記事を活用し、主体的に考え、さらに深い学びへとつなげていく。	



【写真 6：発表の様子】



【写真 7：協力内容を入力する生徒の様子】

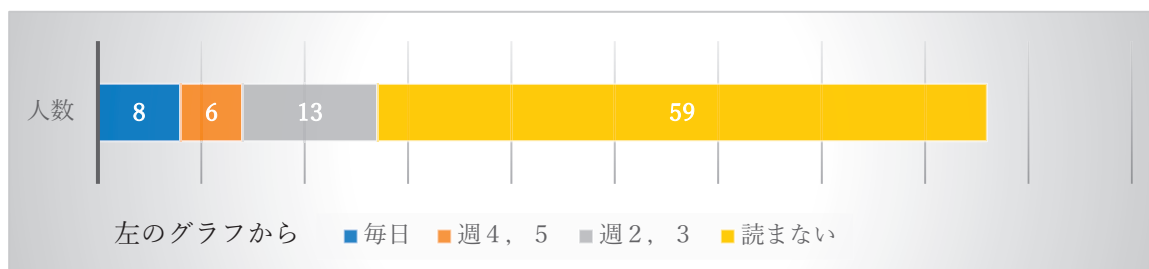
4 成果と課題

まず、NIE 活動を推進するにあたり、新聞に関するアンケート調査を 2 回実施した。1 回目は、新聞の購読開始直前の令和 4 年 9 月、2 回目は本発表直前の令和 5 年 10 月に実施した。その結果をもとに成果と課題を挙げていく。

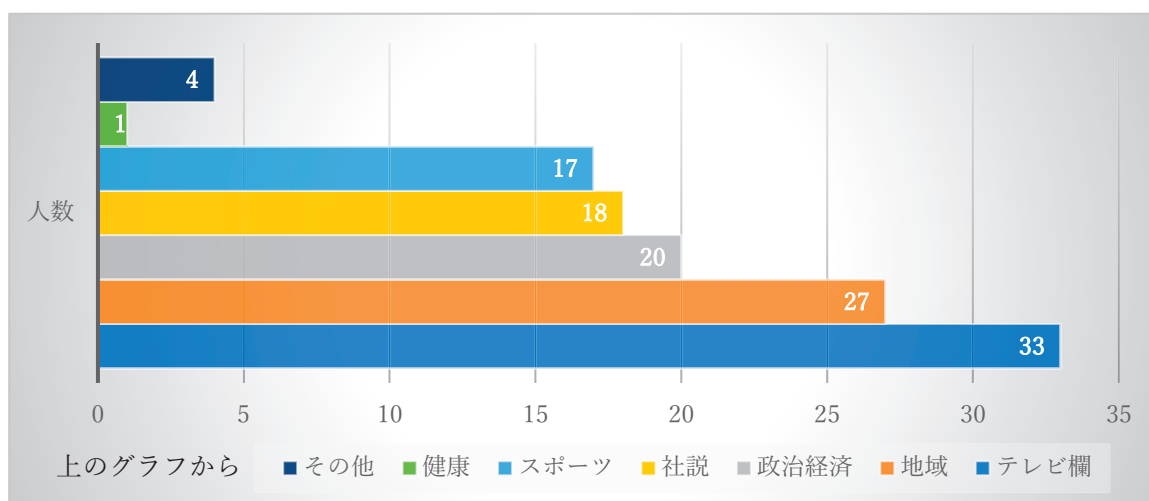
(1) 新聞に触れる時間の視点から

＜第 2 回のアンケート結果より＞ *数字は、生徒の人数

【質問①】あなたは新聞をどのくらい読みますか。あてはまるものに○を付けてください。(平均で 10 分程度でも読むととらえる)



【質問②】新聞を読むときにどんな分野を読みますか。あてはまるものにすべて○をつけないさい。



この回答結果からわかるように、全体の約 69%の生徒の新聞を読む時間が 10 分未満なのが分かる。しかし、読んでいる記事の分野を見てみると、読んでいる分野に大きな偏りはなく、生徒は様々な分野を読んでいることもわかった。このことから、生徒は日直の記事紹介の準備をする昼休みやスクラップを行う NIE タイムに新聞記事を読み、ほかの時間ではゆっくりと読むことは少ないのではないかと考える。

【成果】

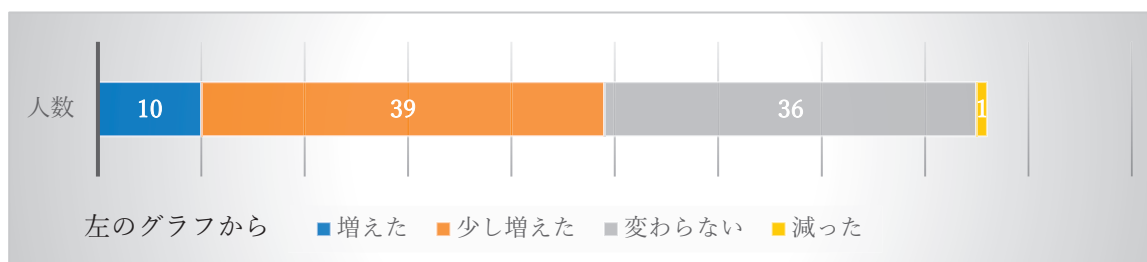
NIE 外部講師による講演会の内容の中に、「新聞は全文読まなくても見出し読みでも記事の内容が分かる」ということを学び、読む時間は少ないが見出し読みで多くの分野を閲覧している生徒が増えていた。

【課題】

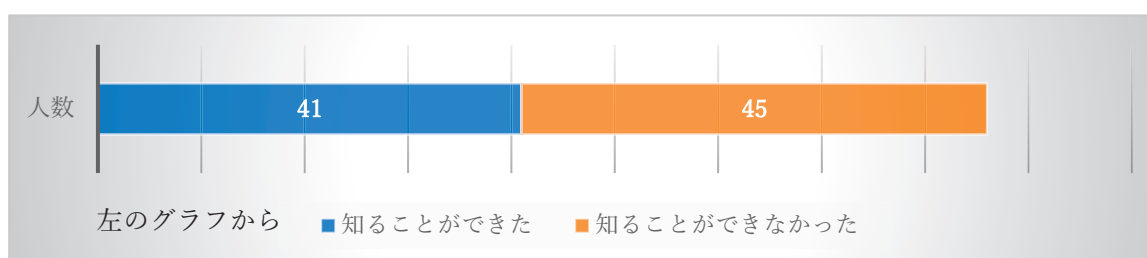
新聞に触れる環境づくりだけでなく、じっくりと読む時間を確保する必要があった。そうすることで起こった事実だけでなく、その根拠となる内容も読むことができ、知識が深まると考えた。

(2) 新聞活用の仕方から

【質問③】 NIE の活動が始まる前と比べて、新聞を読む機会は増えましたか。



【質問⑥】 NIE の活動を通して、新聞のよさ（ほかのメディアにない）は知ることができましたか。知ることができたと回答した人は具体的にどんなことかも書いてください。



質問③にもあるように全体の約 57%の生徒は新聞を読む機会が増えたと回答した。しかし、新聞を読む機会は増えているのにも関わらず、全体の約 52%はその良さを実感できなかったと回答した。

【成果】

新聞を読む環境づくりや新聞を活用した授業など、さまざまな場面で新聞に触れる機会を増やせたことが成果として挙げられる。また、生徒の約半数が新聞の持つ良さに気付くことができたというのも実践してよかったと思える回答であった。

＊参考：質問⑥の具体的な記述（一部抜粋）

- ・知識を深めることができた。
- ・世界情勢を知るきっかけとなった。（詳しく知りたいときはインターネット使用）
- ・新聞は保存がきくため、見たいときに見返せる。
- ・見出しを見て、見たい記事をすぐに探せる程度理解できる。
- ・事実のみが書かれている。

【課題】

新聞読んだり活用したりする場面の設定はできていたが、その方法に課題があったことが伺える。新聞を読ませる機会を設定するのは大切なことだが、読み方や複数の新聞社での比較など、読み方や読むときの視点を与えることが生徒の活動をより充実したものにするうえで重要だったのではないかと考えた。

(3) N I Eに関わる活動における職員アンケートのまとめ

- ・NIE の活動を通して、新聞を読む時間が増えた職員は、全体の 80%以上になった。授業の中で新聞を活用したり、職員の掲示を取り入れたりしたことで、普段新聞購読をしていない職員も新聞に触れる機会ができたことがその要因と伺える。
- ・全職員が、NIE の活動は、生徒にとって実りのあるものになったと回答した。新聞を使った授業や新聞に触れる環境づくりなど様々な面で生徒の様子を見てきた職員がこのような回答をしたことが学校としての成果だと感じた。
- ・NIE 活動で、効果的だったと思う活動を聞いたところ、日直の記事紹介や授業での取組、また今回の公開授業における新聞活用の 3 つの数値が特に高かった。この結果から、任意で取り組むものよりも、まずは確実に新聞に触れる機会を設定することが大切だと考えた。普段、新聞に触れることのない生徒が自分から新聞を読んだり、参考にしたりしようとする姿になるというのは理想ではあるが、なかなか難しいものだと改めて感じた。

【その他①】

＜NIE 活動を通して、苦労したことや改善点等＞

- ・新潟日報社のデータベースは、地元の記事が多く出てくるため便利だが、1 端末でしかログインできないため調べ学習で苦労した。
- ・アナログとデジタルの記事活用の利便性が上がるとよい。データベース等の運用がもっとスムーズにできるとよい。地元新聞社において、学校教育用、フォースクールのような形で教員が簡単に利用できるサイトがあり、記事や指導方法、ワークシートなどが整備されるとありがたい。
- ・研究主題や授業のねらいをどのように設定するかが難しかったと思う。

【その他②】

＜NIE 活動を行う中で、生徒の成長がみられる場面や効果的に新聞活用できていた場面＞

- ・普段、新聞購読をしていない生徒でも NIE の活動を通して新聞に触れることができてよかった。

- ・文字を読むという活動に焦点をあてたことで、結果として学力を伸ばした生徒が多い。
- ・新聞記事から派生して調べることや考えを深めることができた。
- ・NIE タイムで生徒同士が話しながら新聞を読むことは、新聞に興味・関心を持つことにつながると思う。
- ・全校の生徒と職員が複数の新聞に毎日接する習慣ができていることが何よりの成果だと思う。また、NIE 活動を手段として、綾子舞を掘り下げる研究授業を行うことができた。県外・国外にも綾子舞を発信できるチャンスである。英語や中国語でのプレゼンさせるなど子どもたちの未来の活躍の一助になっている。外国語学習へのモチベーションにも活用できる。
- ・終学活で自分の選んだ記事について、発表することを毎日続けてきたことがよかった。
- ・社会の事象に関心を持ち、当事者意識を持って記事を読む。活字や情報を読み解こうとする態度ができつつある。

5 おわりに

普段、情報量の多い新聞を読むように働きかけるということの難しさはあったが、新聞に触れる環境づくりや取組などを継続していくことの重要性に気付かされた。最初は、なかなか成果が見られなかったが、継続していく中で、新聞の内容が会話の話題に上がったり、廊下の掲示に足を止めてその事象についての考えを付箋に書いたりする生徒も多くなっていった。また、生徒だけでなく、職員も一緒になって新聞に触れることで、より一層生徒が前向きに新聞と向き合うことができていたように感じる。

公開授業に向けては、普段あまり考えることのない、地域の課題にスポットを当てたことで、今まで知らなかった情報を知り、より自分事として考え、探究する生徒が多かったことが大きな成果としてあげられる。さらに、綾子舞保存振興会会長の高橋さんからも講演をいただき、南中学区に長年伝わる伝承学習や綾子舞そのものの良さやその課題についても知識を深めることができた。当日の提案では、新聞から得た根拠をもとに、さまざまな角度から考え、取組を考えたことがよく分かった。

最後に、授業における新聞活用は、効果的な場面をしっかりと考え、実践しなければならないが、活用に仕方次第では、大きな効力があり、新聞の持つ一覧性・総合性・信頼性の強みを生徒自身が実感し、新聞と ICT の双方を生かすことで可能性が広がると感じた。NIE 実践委嘱校としての期間を終えるが、可能な範囲で新聞に関わる取組は継続し、現代社会をたくましく、しなやかに「生きる力」をより育んでいきたい。

(小沢 優貴)

担当 NIE アドバイザー及び担当新聞通信社からの一言

1 担当 NIE アドバイザー 上越市立城東中学校 教諭 岡村 範雄



柏崎市立南中学校さんの実践研究を通して、共に学ばせていただいた2年間でした。

「新聞からの学びを、自分達の生活に生かす」ことを基本姿勢とし、「猛暑の中の体育祭のあり方」を考えた1年目、「重要無形民俗文化財である綾子舞を継承・活性化する手立て」「柏崎市の魅力を向上させる方法」を検討した2年目。いずれも、生徒が意欲を持続させやすく、手応えを感じることができる活動でした。生徒と教師が共に、この活動を創り上げたことこそが、南中学校の研究実践の一番の成果だったと言えるでしょう。

特に今年度の実践は、「体育祭の成功」という成功体験の上に成り立っており、生徒達が手応えを感じつつ、自信をもって活動に取り組んでいました。自分達の班で完結せず、他班の活動に相乗りするという手法も斬新でした。新聞という教材が秘めた力、生徒達の柔軟な発想力、プレゼン力が遺憾なく発揮された素晴らしい実践だったと感じています。

2 担当新聞・通信社 毎日新聞社新潟支局長 田倉 直彦



新聞記事を起点に伝統の綾子舞の継承に必要なことを調べて考えることから、地域の活性化に向けて何ができるかというところまで思考をつなぐ授業の展開がよかった。先生方からは子供たちが地域の現状を知り、危機感を持ったことから授業に主体的に取り組み、当事者意識を持つようになったとの発表もあった。NIE授業の持つ力、可能性を改めて再認識した。

時事通信社新潟支局長 寺田 滋



綾子舞という地元の伝統芸能を継承するためにどうしたらいいか生徒たちが真剣に考えていることに感銘を受けた。模造紙を使ってアイデアを出し合うブレインストーミングは実社会に出た際の社会人生活でも役立つ。また、部活で後継者育成が行われていることにも驚いた。模造紙に書かれたアイデアやチャート図を見ると、生徒が活発に議論した跡がうかがえた。ふるさとの伝統芸能がユネスコ無形文化遺産に指定されており、それについて学ぶことは、地域への誇りを育成することにもなる。